

横浜市立 神橋小学校 学校評価報告書 (平成25年度～平成27年度)

| 共通取組 重点取組 | 平成25年度 | | |
|-------------------|--|--|------------------|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | 総括 |
| 1 確かな 学力 | ・「読む」「聴く」「話す」力の育成をめざし、重点研究の国語科を中心に、全教科で言語活動を重視した授業を実践する。 | ・国語科以外での言語活動が意識的に重点化できていない ・単元を見通した上での適切な言語活動への取り組みがまだ不十分 | A ⓑ C D |
| 2 豊かな 心 | ・各学級で年1回は道徳の授業公開をするとともに、お互いの良いところを認め合えるようにする。 ・音楽や図工の授業を中心に情操教育を充実させる。 | ・お互いの良いところを認めあうことが浸透していない児童が多く見受けられ、人権意識が高まったとはいえない。 ・図工や音楽の単元構成や児童への支援法にまだまだ課題が残る。 | A B Ⓒ D |
| 3 健やかな 体 | ・1校1実践の「なわとび運動」を自分のめあてをもって継続的に行っていく。 ・全校統一の「歯みがきカード」を使い、継続して指導・奨励する。 | ・なわとび運動への意識付けが弱い。特に高学年に課題が残る。 ・歯みがきの定着はかなりされてきている。カードの活用をもう少し考えたい。 | A ⓑ C D |
| 4 教育課程 学習指導 | ・「誰にでもわかりやすい授業」の実現をめざし、学年やブロックでの情報交換を行い、「読む」「聴く」「話す」など学習の基盤の力をつけられるように指導の工夫を行う。 | ・まだまだ「誰にでも～」はできていない。また、行事などが立て込んだりクラスに問題が起こってくると、その対応に手がかかり、授業に力を入れられないことが出てくる。 | A B Ⓒ D |
| 5 特別支援 教育 | ・各学級の教育的配慮が必要な子どもについて、校内委員会で報告するとともに、共通理解をもって対応していく。同時に少人数・取り出し授業など、児童・保護者のニーズにあった指導をしていく。 | 配慮が必要な児童の理解はできてきているが、行った手立てが本当にその児童に適切なものか、また、分かりやすい授業になっているのか、わからない。 | A ⓑ C D |
| 6 児童・ 生徒指導 | ・あいさつ・返事ができるように教職員側から積極的に声をかける。 ・「社会で許されないことは学校でも許されない」ことを日常生活の具体的な場面にに応じて指導を積み重ねていく。 | ・教師からの積極的なあいさつの励行が効奏して、児童にもあいさつは定着してきている。 ・同じ指導場面では誰もが同じように指導できるようにする必要がある。 | A ⓑ C D |
| 7 人材育成 組織運営 | ・学年やブロックを中心に、授業研究や教材研究を進めたり、中堅・ベテランの助言・実践を若手育成に努める。 | ・メンター研修の進め方が話し合われておらず、機能していない。重点研究を含む教材研究の時間が、学年によってばらつきがある。 | A B Ⓒ D |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果 | ・六角橋中学校区ブロックの学校同士で連携して、児童理解と授業改善に努めている。 ・六角橋中学校との交流の機会を生かして、児童が中学校生活に意欲をもって臨めるようにしている。 ・ただし情報交換としては良いが、授業改善には至っていない。 |
| 学校関係者 評価結果 | ・大変な時代ではあるが、これだけ多様な学びを展開していることに敬服している。これからもチーム一丸となって感動する授業を作り出してほしいと考える。良い実践をしているのだから、自信をもってどんどん外に発信してほしい。 |
| 評価結果に 対する 学校の見解 | ・重点目標の「授業改善」「児童指導」について今年度は努力してはいるものの効果を挙げるまでにはまだまだできていない。学校の「荒れ」の原因を探り、来年度に向けての目標・具体的手立ての策定を行うべき。 |

| | |
|----------------------|--|
| 学校経営 中期目標 達成状況 | ・特別支援教育への取り組みについては、重点研究と校内委員会活動との連携の結果、支援が必要な児童への理解やその対応の仕方、また落ち着くための教室環境の整備の仕方などは共通理解できたが、効力を発揮するまでには至っていない。 ・学校としての落ち着きはまだ取り戻せておらず、目標達成までにはまだ遠い。地道に子どもたちをよく見て、わかりやすい授業を展開していく必要がある。 |
|----------------------|--|

| 共通取組 重点取組 | 平成26年度 | | |
|-------------------|--|--|------------------|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | 総括 |
| 1 確かな 学力 | ・各教科・領域の学習のねらいに合った言語活動を位置づけ、授業でだれもが自分の考えを表現できる場の工夫をする。 | ・授業の中に話す・書く・考えを交流するなどの場を設定し、話し合いの仕方を例示するなどの工夫をした。話し合いを充実させた授業を進める。 | A ⓑ C D |
| 2 豊かな 心 | ・道徳の授業を通して、自己を振り返り、生き方についての考えを深めようとする子の育成に努める。 ・すべての教育活動で互いに認め合える心を育てる。 | ・教師の道徳学習に対する理解が深まり、ねらいをしっかり意識して授業を行うようになった。 ・様々な場で他者意識を育てるよう努めた。継続が必要。 | A ⓑ C D |
| 3 健やかな 体 | ・1校1実践の「なわとび運動」を自分のめあてをもって、継続的に行っていく。 ・食育、保健学習を通して、自分の健康への関心を高める。 | ・昨年度より朝のなわとび運動にめあてをもって取り組む児童が増えた。 ・栄養教諭、養護教諭による食育・保健学習の実施など、児童の健康に対する関心を高める工夫を行った。 | A ⓑ C D |
| 4 教育課程 学習指導 | ・「誰にでもわかりやすい授業」の実現をめざし、学年での情報交換や教材研究を行う。 ・研究会への積極的な参加や、校内研修で効果的な学習指導法を学び合う。 | ・教材研究を学年で進めることができた。モデルを示したワークシートやOHCの活用などで、わかりやすい授業を目指した。 ・研究発表への参加は、あまりできなかった。 | A ⓑ C D |
| 5 特別支援 教育 | ・各学級の教育的配慮が必要な子どもについて、校内委員会で報告するとともに、具体的な手立てを検討する。 ・少人数・取り出し授業など、児童・保護者のニーズにあった指導を行う。 ・研修を通して、特別な支援が必要な児童の理解を深め、支援方法を学ぶ。 | ・教育的配慮が必要な児童の共通理解はしっかりされていた。 ・具体的で効果的な支援ができるよう、特別支援教育について、学び合っていく必要がある。 ・ニーズに合った指導をさらに進めていく。 | A ⓑ C D |
| 6 児童・ 生徒指導 | ・神橋スタンダードをもとに児童指導委員会で検討し、学校全体で統一した指導が行えるようにする。 ・神橋スタンダードの見直しや、効果的な指導法の工夫を行う。 | ・掃除の仕方など、統一した指導ができた。 ・スタンダードに対して、共通理解ができていないものもあった。教職員がスタンダードをしっかり把握し、保護者に発信する。 | A ⓑ C D |
| 7 人材育成 組織運営 | ・メンター研修の時間確保や中堅・ベテランの参加により、研修内容の充実を図る。 | ・定期的にメンター研修を行い、研修内容の充実を図ることができた。研修内容により参加者を広げたり、研修内容を知らせたりしていく。 | A ⓑ C D |

| | |
|-------------------------------------|---|
| 小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果 | ○今年度より小中ブロック授業研究会等で、授業や児童の様子、環境整備について相互評価を行った。本校の評価結果は次の通りである。 ・学習課題が明確に示されていて、実態に応じた指導の工夫がなされていた。 ・楽しみながら一生懸命取り組んでいた。 ・家庭科室は古く使いにくいところもあるが、安全面に配慮した指導がされていた。教室の全面がすっきりしていて、学習に集中しやすい環境になっている。 |
| 学校関係者 評価結果 | 学校全体が落ち着いてきている。小学校は6年間と子どもの幅が広いが、それぞれにきめ細やかに対応してくれている。地域行事に教職員がたくさん参加してくれていて、学校が身近な存在に感じられるようになった。 |
| 評価結果に 対する 学校の見解 | 重点目標達成に向けた取組がなされ、成果は見られる。来年度は、子どもたちが活躍し自分の成長を実感できるような場の設定や支援方法の工夫が必要である。また、地域・保護者・学校が一体となり、人とのかかわりを大切にした教育活動を進めていきたい。 |

| | |
|----------------------|---|
| 学校経営 中期目標 達成状況 | 25年度の学校評価結果を今年度の学校経営に生かし、目標達成に向けた取り組みがなされ、成果を上げている。 |
|----------------------|---|

| 共通取組 重点取組 | 平成27年度 | | |
|-------------------|---|--------|------------------|
| | 具体的取組 | 自己評価結果 | 総括 |
| 1 確かな 学力 | ・学習のねらいに合った言語活動を位置づけ、授業でだれもが自分の考えを表現したり交流したりできる場の工夫をする。話し合い活動を重視する。 | | A B C D |
| 2 豊かな 心 | ・道徳の授業を通して、自己を振り返り、生き方についての考えを深めようとする子の育成に努める。 ・縦割り活動を通して、責任感や思いやりの心を育てる。 | | A B C D |
| 3 健やかな 体 | ・1校1実践の「なわとび運動」を自分のめあてをもって、継続的に行っていくことができるようにする。 ・食育、保健学習を通して、自分の健康への関心を高める。 | | A B C D |
| 4 教育課程 学習指導 | ・「誰にでもわかりやすい授業」の実現をめざし、学年での情報交換や教材研究を行う。 ・研究会への積極的な参加や、校内研修で効果的な学習指導法を学び合う。 | | A B C D |
| 5 特別支援 教育 | ・各学級の教育的配慮が必要な子どもについて共通理解を図るとともに、具体的な手立ての検討と検証を行う。 ・少人数・取り出し授業など、児童・保護者のニーズにあった指導を行う。 ・研修を通して、支援が必要な児童の理解を深め、支援方法を学ぶ。 | | A B C D |
| 6 児童・ 生徒指導 | ・神橋スタンダードをもとに児童指導委員会で検討し、学校全体で統一した指導が行えるようにする。 ・人と接することを大切にし、自分からあいさつができるようにする。 | | A B C D |
| 人材育成 組織運営 | ・メンター研修の時間確保や中堅・ベテランの参加により、研修内容の充実を図る。 | | A B C D |

| | |
|-------------------------------------|--|
| 小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果 | |
| 学校関係者 評価結果 | |
| 評価結果に 対する 学校の見解 | |

| | |
|----------------------|--|
| 学校経営 中期目標 達成状況 | |
|----------------------|--|